

長崎の林業

小曾根星堂書



渡良小学校（壱岐市）木工体験活動（テーブル付腰掛け製作）

11

目次

- 林政だより 自然災害リスクに備える森林保険 2～3
- 特集記事 森林ボランティア 入江哲明さん 4～5
- 林業普及だより 高性能林業機械の普及と将来施業について
～スギ・ヒノキと機械の大型化～ 6
- 地方だより・五島 2020年は五輪の前に大輪のツバキ咲く五島へ！ 7
- 地方だより・壱岐 壱岐市郷ノ浦町渡良小学校による林業体験 8
- 林業団体情報 冬の森林の楽しみ方@長崎県民の森 9
- センターだより ツバキの育成管理技術～開花数と結実数の関係について～ 10
- 紹介コーナー 長崎サテライトオフィス「木の暮らし」 11
- 2019 まちづくり総合住宅フェア 開催しました 12



2019
No.770

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

自然災害リスクに備える森林保険



森林保険とは

森林保険は、火災や水害などの自然災害により人工林に損害が発生した場合に、その経済的損害を補填する制度です。自然災害はいつ、どこで起こるか分かりません。小規模な林業経営が多く、近年の木材価格の低迷によって、収入が減少している中で、災害が起こった場合、林業経営が困難な状態に陥ってしまう可能性があります。

近年、度重なる自然災害が起こっており、民有林の被害が増大している中で、森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットとして、林業経営の安定、被災地の早期復旧、森林の持つ様々な機能を十分に発揮させるために、大きな役割を果たしています。

森林保険の加入は、個人・法人を問わず、誰でも申し込むことができます。例えば、市町や森林組合などが森林所有者に代わって申し込んだり、ご家族など他の人のために契約することも可能です。森林に損害が生じた場合、保険金は森林所有者に支払われます。

森林保険の対象となる災害は、火災、気象

災（風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害）のほか噴火災の8つの災害です。地震や病虫害獣による損害は対象外となります。

森林保険の成り立ち

森林保険制度の始まりは、昭和12年から開始された森林火災国営保険です。国が保険者となり、火災の危険が大きい林齢20年生以下の森林について損害を填補する制度で、再造林の確保が目的でした。

その後、林齢制限が撤廃され、気象害も対象となり、「森林国営保険」の運用が始まりました。

平成27年以降、国営から国立研究開発法人森林研究・整備機構森林保険センターへ引き継がれ、平成29年に森林保険制度は80周年を迎えました。

県内の保険加入状況

平成29年度の森林保険の加入状況は、全国で97,525件、673,235haとなっており、そのうち長崎県では1,402件、約8,733haの森

林が加入しています。

平成 29 年度は、長崎県内で森林保険の対象となった損害はありませんでしたが、平成 28 年度は水害・風害により被害を受けた人工林 0.66ha に対して、約 85 万円の保険金が下りました。

他県の事例

【水害】 福岡県私有林

平成 29 年 7 月に九州北部地方で、停滞した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、同じ場所で強い雨が長く続き、記録的な大雨をもたらしました。24 時間降水量は 545.5mm を観測し、この豪雨により山腹斜面の崩壊が多く起こりました。福岡県内の森林保険に加入していた私有林では、17 年生スギ林 0.9ha のうち、0.27ha が被害を受けました。これに対し、約 50 万円の保険金が下りました。

栽した森林への割引なども新設されました。

避けられない自然災害に対して、森林保険に加入してリスクを軽減しましょう。保険料や申し込みの手続きなど、詳しくは森林保険センター、長崎県森林組合連合会までお問い合わせください。



↑ 水害による被害を受けた森林（福岡県）

森林保険の加入方法

森林保険への加入は、最寄の森林組合や、長崎県森林組合連合会を通じて申し込むことができます。保険料は、森林の所在地、樹種、林齢、面積などによって決まります。契約期間は 1 年未満の端数を付けた契約を行えるため、他の契約と更新手続きの時期をそろえることができます。また、花粉症対策苗木を植

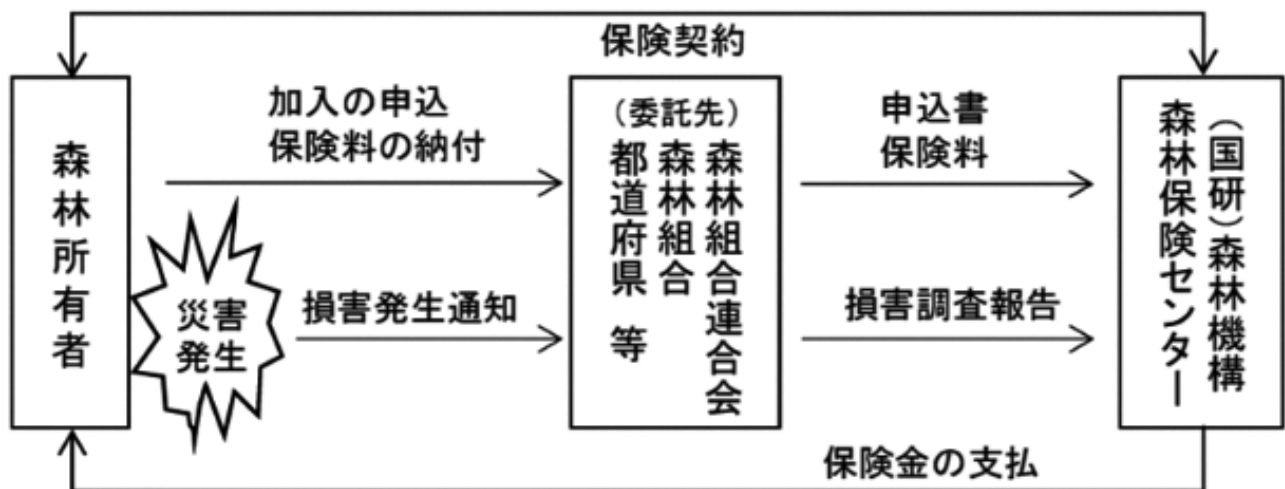
- 森林保険センターホームページ

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/fc/index.html>

- 長崎県森林組合連合会

TEL : 0957-27-1755

(林政課 森林整備班)



↑ 保険契約、保険金支払いの流れ

【特集記事】

森林ボランティア

いりえのりあき

入江哲明さん



森林ボランティアとして活躍している入江哲明さんを紹介합니다。入江さんは、長崎市役所で林務行政に長年従事されていました。

長崎市役所時代

入江さんは西彼杵郡長与町の出身で、現在 64 歳、実家がミカン生産農家だったため、幼いころから森林と接する機会には恵まれていたそうです。平成 31 年長崎市役所を退職後はミカンや野菜などを生産し、直売所などに出荷しています。

長崎市役所では、昭和 49 年から平成 31 年 3 月までの在職期間の大半を林務行政に尽力され、市民ふれあいの森（市民の森等）の整備計画、市有林の維持管理、特用林産物（タケノコ等）の振興、森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の推進など、様々な林務行政に携わってきました。仕事に熱心だった入江さんのもとには、当時も今も森林の事で頼ってこられる方が多くおられます。

長崎市民の森整備

長崎市民の森の再整備にあたり「市民の森あり方検討会」のスタッフとして、市民の森のあり方、必要とされる施設の種類や規

模など、とりまとめに奔走し平成 7 年に「体験の森」をオープンすることになりました。入江さんの喜びもひとしおだったそうです。今では多くの市民に憩いの場所と親しまれる森となりました。

長崎市民の森は、ハタ揚げで有名な唐八景から八郎岳の稜線を中心に広がっています。ここからは長崎市街地、遠くは橘湾を隔てて雲仙、天草を望むことができます。



長崎市民の森「きつしゅう橘翔大展望」からの眺望

森林・山村多面的機能発揮対策

森林・山村多面的発揮対策交付金事業では、手入れがされないままの森林を整備する活動費用を国・県・市が支援する事業で、3名以上の団体であれば申請し、内容が認められ採択されると交付金を活用することができます。

「長崎市の森林所有者は、一部では積極的な森林整備を行っている方もいるが、大半が小面積の所有者であり、森林整備の必要性は理解されていても私財を投じにくい。」
「特に活用されない広葉樹等の森では、手入れがされずイノシシ等鳥獣の住処となり被害もでている。」と入江さんはおっしゃいます。

そこで当事業が、活動団体の環境改善（活動資金や資機材等）等による団体数の増加と共に未整備森林の改善に有効であり、地域で支える森林整備への関心が高まるのではないかと考えた入江さんは、多くの森林ボランティアの方々に当事業を紹介してきました。

今では、当事業を活用した長崎市の団体は、長崎県全体の1/4の11団体、森林整備面積は約25haになります。長崎市の森林は、入江さんの尽力もあり森林ボランティアや地域の人たちで手入れされることとなりました。行政の支援と地域住民で支える森林整備の成功例ではないでしょうか。

自ら森林ボランティア活動

入江さんは、現在、長崎県森林ボランティア団体の「長崎もり活研究会」に参加し、長与町の荒廃竹林や長崎市民の森周辺の荒廃竹林・人工林（スギ）の整備をおこなっています。

入江さんはおっしゃいます。「これまで、森林の整備に行政から携わって、森林ボランティア団体の皆様には大変お世話になっていました。退職後は、微力ながらも貢献できればと思い、森林ボランティア活動をさせてもらっています。」

退職しても入江さんの変わらぬ森林への

熱い思いが伝わってくるようです。

森林ボランティアの重要性

入江さんに森林ボランティアの社会的な重要性についてお聞きしてみました。

「森林の整備は、原則として森林所有者や行政の支援により実施されていますが、一部では、人手不足や経済面等の理由により適正な整備が困難な箇所があります。そのような中で、近年、森林ボランティアへの期待が増えています。森林ボランティア活動を通して、森林保全だけではなく森林の重要性を多くの人に伝える大切な役割も担っているのではないのでしょうか。」

取材を終えて

長崎の森林の為に長崎市役所で長年貢献された入江さんは、現在は森林ボランティアとして精力的に活動されています。入江さんの今後一層のご活躍をお祈りします。



取材にご協力いただいた入江さん

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

高性能林業機械の普及と将来施業について ～スギ・ヒノキと機械の大型化～

高性能林業機械の増加

対馬市では、ここ数年で高性能林業機械の保有台数が飛躍的に増加しています。国庫補助事業や『対馬市雇用機会拡充支援事業』などの補助金を活用したり、自力で購入したりと様々ですが、今年度は特に新規に整備する林業事業体が多くなっています。



現場では・・・

伐期の延長に伴い、スギ・ヒノキが少しずつ成長した結果、材の直径が大きくなったり、枝が太くなったりして、手持ちの高性能林業機械では対応し難い、規格外の材が少しずつ増えてきています。特に、プロセッサやハーベスタなどの造材機で対応できないものが、結果的に手造材になることは少なくありません。現場では『今より1サイズ大きい機械が欲しい。』という声も聴かれます。

機械も大型化??

高性能林業機械による作業能力を上げるためか、対馬市内に新たに整備される機械のサイズが、従来のものよりも少しずつ大きくなって来ている傾向にあります。

機械が大きくなれば、機械が通行するために必要な道幅が広くなり、それだけ森林を切り崩す必要があります。『山』で作業をする

機械である以上、『青天井』に機械のサイズを大きくすることもできません。

また、機械の構造上、機械の自重でバランスを取りながら、木材を掴んで作業しています。たとえ技術革新が進んだとしても、機械の自重（大きさ）が作業能力と関係しているため、コンパクトで能力の高い機械の開発はハードルが高いと思われます。

適寸で伐採するサイクルを作る

高性能林業機械が使えなければ、チェーンソーを使って作業をしなければなりません。高性能林業機械を活用しての林業が、一時代のトレンドではなく、未来でも実施できる林業であるためには、生産性の高い山づくりへと誘導していく必要があると考えます。

その為には、偏った年齢構成を是正し、『適寸で伐採するサイクル』を構築する必要があります。『適寸で伐採するサイクル』＝『伐ったら植えるサイクル』が当たり前になるよう、普及員として、主伐・再造林を推し進める必要があると改めて感じています。



(対馬振興局林業課)

2020年は五輪の前に大輪のツバキ咲く五島へ！

はじめに

五島列島は日本有数のツバキの自生地であり、開花時期である2月頃は、五島全体で美しい花を見ることができます。毎年この時期になると「五島椿まつり」が開催され、島は多くの方々に賑わいますが、来年2020年はこれに加えて大きなイベントが開催されます。

それが「2020 国際ツバキ会議五島大会」と「第30回全国椿サミット五島大会」です。

今回は、両イベントの事務局を務める五島市農林整備課の谷川様、榎津様へお話を伺いました。

「国際ツバキ会議」と「全国椿サミット」について

Q：両イベントの内容について、簡単に教えてください。

A：国際ツバキ会議は、世界のツバキ愛好家が一堂に会し、研究発表や情報交換を行いながら国際交流を深めることを目的として、2年に一度、国際ツバキ協会加盟国（28か国）の内、いずれかの国において開催されています。全国椿サミットは、ツバキ・サザンカを市町村の花木にしている地方自治体が集まり、相互の情報交換と交流を通じて地域活性化に資することを目的として、平成3年から毎年開催されています。全国椿サミットが五島市で開催されるのは、2005年の第15回大会に続き2回目となります。

Q：2つのイベントは同時期に開催されるようなのですが、もともと一緒に行われるものなのですか？

A：日本で国際ツバキ会議が開催される場合は、慣例的に全国椿サミットも同時開催するようになっています。国際ツバキ会議が日本で開催されるのは、京都市、舞鶴市、宮崎市、久留米市に続き5か所目になります。

Q：どれくらいの参加者を見込んでいますか？

A：両イベント合わせて最大500名を想定して、

現在準備にあたっています。

Q：一般の方も自由に参加できるのですか？

A：両イベントは福江文化会館をメイン会場として開催いたしますが、2月29日及び3月1日に行われる開会セレモニーは、一般の方々にも無料開放することとしています。椿に関する記念講演やアトラクションの他、会場内には様々な物販ブースや展示コーナーなどを設けておりますので、多くの市民の皆様にご来場いただきたいと考えております。

Q：島外からの参加者にぜひとも見てほしい所はどこでしょうか？

A：国際ツバキ会議の視察コースにも設定しているのですが、五島が世界に誇る名花『玉之浦椿』の発祥地でしょうか。もちろんの世界文化遺産の構成資産である「奈留島の江上集落」「久賀島の集落」も視察コースの中に組み込まれています。

終わりに

事務局の方のお話から、このイベントにかける意気込みと、五島の魅力をこの島へ訪れた方へ、是非伝えたいとの熱い思いを伺うことができました。皆様もぜひ、来年はツバキの花が咲き誇る五島へおいでください。



配布されるパンフレット

(五島振興局 林務課)

壱岐市郷ノ浦町渡良小学校による林業体験



間伐体験活動の様子



木工体験活動の様子

はじめに

令和元年10月8日に、壱岐市の渡良小学校の児童たちが、間伐体験、木工体験を行いました。この活動は県の「ふるさとの森林づくり事業」を活用し、壱岐市林業研究同志会が実施しました。

間伐体験活動

間伐体験には6年生16人、5年生13人の計29人が参加しました。4班に分かれ、みんなで協力してヒノキを各班1本ずつ切り倒しました。6年生は去年に引き続き2回目の体験となり、去年よりうまくノコギリが使えるようになったと喜んでいました。初めて参加する5年生も、6年生に負けないようみんなで声を掛け合い、木が倒れた時はどの班からも歓声が上がっていました。

木工体験活動

木工体験には6年生16人が参加し、テーブル付腰掛けを1脚製作しました。同志会の方々の指導のもと、慣れない手つきでかなづちやノコギリを使っていましたが、みんなで協力して楽しみながら作業していました。完成後はみんなで腰掛けに座り、木の感触や匂いを楽しんでいました。

おわりに

今回の活動を通して、子供たちが森林の役割を知り、木に親しむいい機会になったと思います。これからも子供たちの心豊かな育成に繋がる活動を支援していきたいと思えます。

(壱岐振興局 農林整備課)

冬の森林の楽しみ方@長崎県民の森



冬のキャンプは薪ストーブ&鍋が楽しい！！

①冬のキャンプ

キャンプは四季折々、いつでも楽しめるアウトドアなのですが、「やはり冬は寒くてね。」という人が殆どでしょう。でも、防寒対策をしっかり整えれば、凜とした冷気の中でゆったりとした時間を過ごすことが出来る冬キャンプこそ、大自然を満喫できて本当に楽しい時間が過ごせると思います。

長崎県民の森では通常、キャンプ場内でのたき火を禁止しておりますが、冬キャンプの必需品である薪ストーブについては使用を許可しており、ダッチオーブンとセットにして貸出をしています。薪を燃やしながら、おいしいオリジナル鍋を作り、仲間や家族と語り合うのもいい冬の楽しみ方ではないでしょうか。

②冬枯れの散策

紅葉が終わり、本格的な冬になると県民の森も落葉樹の葉は落ち、森の中が明るくなります。

テルモスにコーヒーを入れ、手にトレッキングポールをもち、カサカサと音を立てながら岩背戸溪谷沿いを歩いていけば、日常を忘れゆっくりとした時間が流れていきます。

園内には家族で楽しめるコースから本格的なウォーキングが楽しめる健脚コースまで多彩でバリエーションのある散策道が整備されていますので自分にあったトレッキングを冬の一日に楽しんではいかがでしょうか。

③冬のイベント

【こがし絵体験】

熱ペンで木のプレートに絵を描いていきます。森林館に「こがし絵」コーナーを作っていますのでいつでも体験することができます。

【ミニ門松づくり】

園内で集めた材料で門松を作ります。
日時：12月22日（日）10:00～、14:00～
定員：各25組 参加料1,000円



サンタと門松

【親子木工教室】

用意したキットを木工館で作ります。
日時：1月19日（日）13:00～
定員：20組 参加料 有料（未定）

1年を通じて、いろんな自然体験を仲間や家族と一緒に長崎県民の森で楽しんで下さい。

（長崎県民の森管理事務所）

ツバキの育成管理技術 ～開花数と結実数の関係について～

はじめに

長崎県では主に五島列島でツバキ油が生産されており、長崎県全体の生産量は全国でも1位、2位を争う量となっています。

しかしながら、ツバキ油の原料となるヤブツバキの種子は年によって豊凶の差が大きく、成長して高木化すると収穫作業の効率が落ちるといった課題があります。

そのため、農林技術開発センターでは剪定作業等により、毎年安定して種子を生産する方法や高木化を防ぐ方法の研究に取り組んでいます。

ヤブツバキの開花と結実

ヤブツバキの開花は、早いもので10月、遅いもので5月頃と開花する時期に半年以上の幅があります。

また、多くの花は開花後に受粉して子房が膨らみ幼果ができますが、収穫時期の9月頃までに幼果が自然と落下する生理落果が多く、最終的に収穫できる実の一部だけとなります。

農林技術開発センターでは開花と結実の関係を明らかにするため、当センター内のヤブツバキ22本で調査を行いました(写真1)。



写真1 ツバキ調査地

開花数と結実数の関係

ツバキは1月頃から咲きはじめ、3月頃にピークを迎えました。その後、開花数は減少していき、4月まで開花は確認できました。

結実数についても開花数と同様の傾向が見られました。(図1)。

そのため、開花数と結実数の関係について調べたところ、開花数と結実数には極めて強い正の相関(片方が増えるともう一方も増える関係)がみられました(図2)。

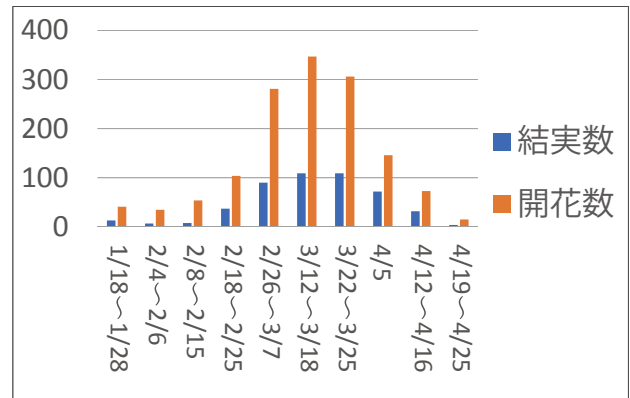


図1 開花確認日ごとの開花数と結実数

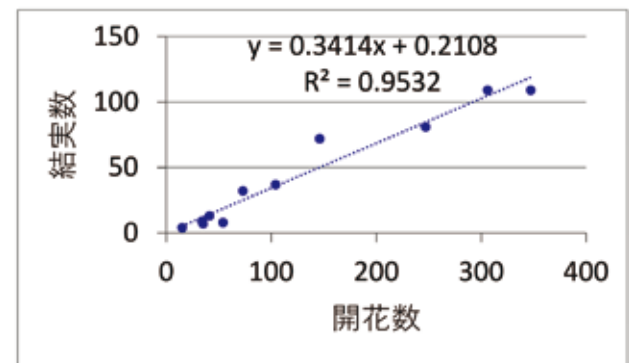


図2 開花数と結実数の関係

おわりに

今回の調査では開花数と結実数に正の相関が見られましたが、一方で2月初旬は他の時期に比べると結実率が低く、開花数だけでなく開花時期も結実率に関係していることが考えられます。

今後さらに調査や詳細な分析を行い、効率的な剪定方法や剪定に適した時期の判断指標等の開発に取り組んでいきます。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー 長崎サテライトオフィス「木の暮らし」



「建築会社には人が遊びに来ないが、森には人が集まる。」

この言葉を話し、建築だけではなく、「風の森」という自然と人が繋がる里山の空間を作った（株）浜松建設代表取締役の濱松和夫さんは8月、長崎市大浦町に長崎サテライトオフィス「木の暮らし」をオープンしました。

まず、目に付いたのは、水槽が設置してある大きなテーブルです。こちらは長崎では珍しいトチの木で作られたテーブルです。穴が開いていたため、この銘木は倉庫に眠ったままになるところだったそうです。銘木を使った経緯について尋ねてみると、「トチの木に使うと欲しいと言われたような気がした。」と話され、たくさんの人のアイデアや技術で現在のようになつたとのことでした。

店内やテラス席ではコーヒーやソフトドリンクを楽しむことができます。貸しスペース（2,000円/時間）では、ケヤキの一枚板を使用したテーブルで小会議・ワークショップ・展示会等様々な形で利用することができます。是非、木の良さ・魅力を感じながら、ゆったりとした時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

長崎サテライトオフィス「木の暮らし」 株式会社浜松建設

〒850-0918

長崎県長崎市大浦町7番20号1階

電話：095-807-5193

営業時間：10時～17時 定休日：不定休

HP：<https://hamamatsu-kensetsu.co.jp/>

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和元年10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	17,700	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	16,600	多い	普通	普通
	20~22	直	16,700	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	15,700	多い	普通	普通

【スギ】

令和元年10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,900	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,600	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

2019 まちづくり総合住宅フェア 開催しました

毎年10月は「住生活月間」です。県では令和元年10月5日、6日の2日間において新たな時代の住まいづくりをテーマに「2019まちづくり総合住宅フェア」を長崎県庁で開催しました。

長崎県地域材供給倍増協議会では、木材に触れて親しんでもらうための親子木工体験、森林保全について興味を持ってもらうため、竹林整備活動活動の内容の展示及び有限会社野中木工所の木工作品等の展示を行いました。



長崎県地域材供給倍増協議会のブース

親子木工体験

親子木工体験では、スタッフや親と一緒にハンマーやノコギリ、電動ドライバー等の道具を使用しながら組み立て式のイスづくりに取り組みました。最初は恐る恐る道具に触る子どもが多かったですが、作業を進めていくうちに段々と慣れていき、ようやく出来上がった時には嬉しそうにイスの触感や音を確かめたりしていました。



木工体験の様子

竹林整備等の活動内容の展示

竹林整備等の活動内容の展示では、森林ボランティア団体「長崎もり活研究会」の活

動様子を展示しました。この活動では、森林山村多面的機能発揮対策の支援を受けています。活動について、集合・作業・整備前後の写真を展示し、適正な森林管理を実現するため森林保全活動を行っていることを紹介しました。

木工作品の展示

木工作品の展示では、大村市富の原で家づくりや家具・建具づくりを行っている有限会社野中木工所で作成された作品の展示をしました。スギやタモノキ等で作られた電源がいないスピーカーやプレート、看板等様々なものが展示され、その精工な作品をじっくり見られる方が多く、中には販売して欲しいという声もありました。



スギやタモノキ等で作成された木工作品

今回のイベントでは、実際に木材を見て、触り、体験することで楽しみながら木材・森林に親しみと興味を持ってもらえたのではないかと感じます。イベントをきっかけに親子で森林の価値・重要性について考えるきっかけになったのではないかと思います。

2日間にわたり行われた「2019まちづくり総合住宅フェア」は大盛況のうちに幕を閉じました。

(NPO 法人地域循環研究所)

長崎の林業 11月号 第770号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp